

# 令和7年度小松市立木場小学校 学校評価 1(中間)

## めざす児童生徒像

よく考え工夫する子(思索) 【主体的に学ぶ力 学びを生かす力 表現する力】  
 たくましい心と体の子(剛健) 【挑戦する意欲 最後までやり抜く力 健康を管理する力】  
 思いやりの心で協力し合う子(誠実) 【対話する力 協働する力 自他の良さを認める力】

※児童生徒結果-教員結果・保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果(%)			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
(学校重点項目)	組織的な学校運営	木場の校風づくり 各項目90%以上の達成率にする。	①児童は自分を高めようと意欲を持って粘り強く努力している。	100.0%	94.8%	60.3%	39.7%	①②とも児童及び職員との差はそれほどないが、保護者との差は大きくみられる。特に、①の差は大きく、学校の児童の姿と家庭での姿の違いの表れとみられる。	懇談や通信などで家庭との連携を密にし、学校の児童の姿を共有したり、家庭学習・生活チェック・家族読書などの家庭との連携による取り組みで児童の高まろうとする姿が家庭でも現れるように指導する。
			②児童は周囲に対して、思いやりの心で接し、互いの良さを認め合っている。	100.0%	96.6%	81.0%	19.0%		
			集計						
石川県重点項目共通	業務働き方や改善	各項目90%以上の達成率にする。	①時間外勤務の削減に取り組み、80時間越えゼロとなっている。	81.8%				①②とも8割以上の結果となり、昨年度末の結果よりも良い結果となった。しかし、①については目標指標の90%には達していない。	時間外勤務の数字的な結果は80%を超えている職員は0である。また、平均時間も40時間前後である。個人的に超過勤務時間を削減する工夫や能率化を組織として共有したりするなどに取り組む。
			②学校組織の中で自分の役割が明確であり、創意工夫しながら取り組むことができている。	100.0%					
			集計						
目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果(%)			※差	達成状況の分析	改善策
小松市共通重点項目	学校研究	①の達成率を中間95%以上、年度末100%にする。	①研究主題に迫る目標を実現する授業スタイルを共有し、単元(授業)構想シートなどの具体的な取組を共通実践している。	100.0%				①②とも100%となり、教職員が共通実践を通して授業改善等に取り組んできたことが分かった。研究授業の整理会でも積極的に授業中の児童の姿や今後の授業改善に向けて話し合う姿が見られた。	今の取組を継続とともに、授業改善に向けてより重点を絞って取り組むことで学校としての方向性を固めていく。そのために、今後の授業改善に向けて研究授業を通して見えた成果や課題について共通理解を進め、取り組んでいく。
			②授業研究では、教職員一人一人が子供の姿を語ったり、改善案を示したりするなど主体的に取り組んでいる。	100.0%					
			集計						
小松市共通重点項目	指導力の向上	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善 ①②④の項目での肯定的な回答が、中間85%以上、年度末90%以上にする。	①児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいる。	90.9%	94.8%		3.9%	①②③④⑥の項目で教員・児童ともに90%以上となった。一方で、⑤については児童87.9%となった。中間としては目標を超えているものの、児童がより自分の学びの変容を実感したり、達成感を得られたりするよう取り組んでいく。	⑤の目標達成に向けて、研究推進委員会で1学期の取組を振り返りながら、2学期からは研究の柱の一つである「見取りと適切な指導・支援」の充実を目指す。
			②児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	100.0%	94.8%		5.2%		
			③児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	100.0%	91.4%		-8.6%		
			④児童生徒は、話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え方(自分と同じところや違うところ)を受け止めて自分の考えを伝えている。	100.0%	93.1%		-6.9%		
			⑤児童生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。	90.9%	87.9%		-3.0%		
			⑥児童生徒は、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している。	100.0%	96.6%		-3.4%		
小松市共通重点項目	学力の向上	カリキュラム・マネジメント ①②③の項目で中間・・・85%以上 年度末・・・90%以上	①指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標の実現に向け、各教科等の教育内容を教科横断的な視点で組み立てている。	100.0%				①②について、カリキュラムマップの見直しを行い、教科間のつながりを意識した教育実践を推進していく。 ③について、1学期に重点目標に挙げた国語・算数の単元の検証を行い、3学期へとつなげていく。 ④について、小中連携協議会で話し合った南部校区の課題を共有し、共通実践を行っていく。	個別最適な学びでの学び方について、ICT活用の研修を行ったり、研究での取組を関連させたりし、取組を続けていく。家庭学習においても、自分で計画を立て学習内容を決めたり、各学年の目標時間に達するために何を学ぶのか考えさせたりすることで児童が工夫して学んでいるという意識を高めた。
			②児童生徒や学校、地域の実態を捉えて教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。	100.0%					
			③全職員が学力向上の取組の目的や意義を理解し、課題の解決を期待できると納得して共通実践に取り組んでいる。	100.0%					
			④校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有している。(小中連携)	100.0%					
			集計						
小松市共通重点項目	学習方法	①児童の「分からぬことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫している。」を90%以上にする	①児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行っている。	90.9%	89.7%		1.3%	①については、教員90.9%、児童89.7%と目標値に近い値となった。	個別最適な学びでの学び方について、ICT活用の研修を行ったり、研究での取組を関連させたりし、取組を続けていく。家庭学習においても、自分で計画を立て学習内容を決めたり、各学年の目標時間に達するために何を学ぶのか考えさせたりすることで児童が工夫して学んでいるという意識を高めた。
			②児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を活用している。	90.9%	97.9%		7.0%		
			集計						

## 令和7年度小松市立木場小学校 学校評価2

目標・具体的取り組み		取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	児童の主体性を育むための積極的な生徒指導	<p>・普段の職員会での児童の情報共有だけでなく、定期的な児童理解の会を実施でき、問題行動等の早期発見・未然防止を図ることができている。また、1回目の木場っ子アンケートをもとに、担任が自分のクラスの全児童と面談を行った。児童のアンケート結果だけでなく、児童への事務指導や保護者への対応等を含め、全教職員と情報共有ができた。</p> <p>・「木場っ子みんなで安全で楽しい学校にしよう。」の児童会目標のもと、各委員会と委員会を中心とした取組を実施している。運営委員会では、楽しい学校にどうしたらいいかを考え、「みんなで木場っ子運動」と題し、全校児童でおこなった「木場っ子運動」を計画・実施した。この取組で運動に親しみながら異学年で交流を図ることができた。並ぶ時や対戦するゲーム編成で反省点が出たが、この振り返りを大切にして今後さらに良い取組ができるようにしていく。また、中学生サミットの取組も児童の主体性を意識したものにしていく。</p>	
	命を守る取組を推進し、児童の安全への意識を高める	<p>・避難訓練や集団登下校訓練、交通安全教室を計画的に実施し、児童と職員で命を守るために必要な避難の仕方を共有することができた。火災の避難訓練では、避難時の状況を具体的に想定し、非常に実践的な訓練ができた。</p> <p>・2学期にも、避難訓練を行なう予定である。今後は、教職員および児童が、あらゆる場面で危機感に応じてできるよう実践的な訓練を計画し、実施していく。</p> <p>・交番指導については、集団登下校訓練や交通安全教室に限らず日常的な指導を行うことで、ルールを守らうとする意識の継続を図る。</p> <p>・定期的に教員が校舎の安全点検を行うことで、事故の未然防止に努めている。災害等の際にも各点検場所の確認を行なうようにしている。</p>	
特別教育相談教育	児童一人ひとりの発達課題に応じた教育支援体制の充実	<p>・支援を必要とする児童について、発達の課題を把握し情報共有するため個別の支援シートを作成する。</p> <p>・校内委員会を適宜開催し、児童理解の会などで教職員全員で共有した支援方法で支援する。</p> <p>・外部機関との連携を図り、必要な時は専門相談員などを招聘して児童の特性や効果的な支援方法などについて助言を受ける。</p>	<p>・発達に課題を抱える児童について個別の支援シートを作成し、校内委員会を開いて情報共有したうえで支援方法について協議することができた。</p> <p>・外部機関と連携し、専門相談員を招聘して気になる児童の見取りを行い、児童の特性を把握するとともに効果的な支援方法について共通理解することができた。</p> <p>・学校から外部機関に要請する以外に、保護者から市の教育センターに相談した内容についても児童理解の会で共有することができた。教職員の一致した支援につなげていきたい。</p>
道徳教育	道徳教育を中心とした教育活動全般の充実を図る	<p>・定期的に道徳の授業づくり等の情報を発信・共有することで教員の道徳教育充実を図る。</p> <p>・重視項目の取組を他教科や活動と連携付けるよう、カリキュラムマップを意識した道徳教育の推進を図る。</p> <p>・家庭・地域と連携した道徳を推進していくために年に1回授業参観で道徳の授業を公開する。</p>	<p>・1学期中に3回、道徳通信を教職員向けに発行した。通信を通して、授業づくりのポイントや評価の仕方を共有することができた。また、「未来へむぐる家族の手紙」と関連させた授業の展開を紹介することで外部の取組を生かした道徳の授業づくりについても伝えることができた。</p> <p>・カリキュラムマップを活用することで、重点項目について他教科と連携付けて、教科横断的な道徳教育を行なうことができた。</p> <p>・4月の授業参観で道徳の授業を行い、学校で行われている道徳教育を家庭や地域に公開することができている。まだ全学年ではないので、またの学年には声かけをしていく。</p>
情報教育	ICT端末の効果的な活用を図る	<p>・ICT端末の効果的な活用を模索し、職員間での情報の共有を図るために研修を実施する。</p> <p>・児童がICT端末を日常的に使えるよう環境整備を行い、学年の実態に応じた情報活用スキル習得を図る。</p> <p>・情報モラル教育の職員研修やデジタルコンテンツを充実させ、児童への確かな情報モラルの習得を図る。</p>	<p>・今年度もGIGA研修の時間を職員会議後に設定し、職員のスキルアップを取り組んでいる。また、今年度は情報担当からの情報発信だけでなく、職員間で活用方法の情報共有も行っていく。</p> <p>・昨年度整備したクラスサイトの更新を随時行い、職員、児童共に使いやすい環境整備に取り組んでいく。</p> <p>・デジタルコンテンツにあたるGIGAワークブックいしかわもクラスサイトから簡単にアクセスできるようにし、児童の実態に応じて情報モラル習得できる環境を整備し、定期的に指導にあたっていく。</p> <p>・職員のICT活用に関する相談等を受け付ける窓口をネットワーク上に設け、タイムリーに対応できるようにし、校内DXを推進する。</p>
読書教育	図書の充実を図り、児童の読書意欲を高める	<p>・年間の計画をもとに図書室を利用したり、教科にあった本や「本のとびら」の貸し出しを行なつたりすることで、児童の読書の幅を広げる。</p> <p>・図書委員会が主体となり、計画的にイベントを行うことで、図書室利用の促進を図ったりさまざまな本のよさを広めたりする。</p> <p>・図書ボランティアと連携し、より豊かな読書経験の機会を与える。</p>	<p>・4月の図書オブリギュートーションをはじめとし、年間計画を基に図書室の利用を推進してきた。また、主に国語科を中心に行なう読書や参考資料として図書の利用を行うことができた。主に「本のとびら」の貸し出しが活発にならう。担任に呼び掛けている。</p> <p>・図書委員会のイベント「図書がごろく」について、委員会の児童らが主導的に企画・運営することができた。しかし、ルールが分からにくく、取組は学年で差が出てしまった。後期ははかりやすさも留意してイベントを企画・運営していく。</p> <p>・図書ボランティアと連携し、読み聞かせや計画的に行なうことができた。読み聞かせを通じて図書の幅を広げたり、行事や季節に合わせた本や季節を感じることができた。</p>
保健健康教育	自己の健康と安全（命）を管理する能力の育成	<p>・睡眠と食育について各学年1回ずつ以上学習し、「生活チェックカード」の取り組みにつなげられるようにする。</p> <p>・「生命（いのち）の安全教育」に連携付けて、性に関する指導を各学年1回以上行う。</p> <p>・学校保健委員会を開催し、家庭と学校の連携を高めていく。</p>	<p>・1、3年で食育授業を行うことができた。2学期以降も各学年、計画的に睡眠学習と食育を進めることで、児童の食生活が改善することができた。</p> <p>・「生命（いのち）の安全教育」を各学年で行なうことができたので、今後は性に関する指導を学習計画に沿って実施できるようする。</p> <p>・また、学校保健委員会に向けて「電子機器と脳との関係」に関する保護者アンケートを実施した。今後、集計分析を行い学校公開日に発表することで、様々なデバイスとの付き合い方について保護者が関心を持ち、メディアに触れる時間や内容について話し合う機会を作り、適正な使用が広がることにつなげたい。</p>
体力向上	年間を通した体力向上の取組の推進	<p>・体力アップ1校1プランをもとに児童の健康安全に資する活動を行い、児童の体力向上に努める。</p> <p>・「木場っ子トレーニング」として短時間でできる体幹トレーニングを継続的に行い、児童の姿勢維持や体力、集中力の向上を図る。</p> <p>・各学年における「スマボチャレいしかわ」の強化週間を設け、意欲を高めるとともに運動習慣の定着と体力の向上を図る。</p> <p>・体力テストや持久走大会への練習等において、全校共通の学習カードを活用して取り組み状況を明確にし、成果が見える形にすること。</p>	<p>・健康委員会による木場っ子トレーニングのお手本動画を見ながら、全校で木場っ子トレーニングを継続的に行なった。また、児童アンケートで体幹力向上に目的を持つて取り組んだと回答した児童の割合は94.9%であった。児童全員がそれぞれ目的をもって取り組んだことがわかる。5月に行なった体幹チェックでは達成率が95%であった。前年度の5月（56%）に比べて高くなっているので、取組を継続し体幹力の向上を図ることで、児童の意欲の向上を図った。</p> <p>・体力テストに向けて、前年度の個々の記録や、県の平均などを記載した学習カードを用意した。前年度の自分の記録や県の平均記録と比較ができるので、児童が今後の目標を設定しやすくなる取組み意欲の向上につながった。2学期に行なう持久走大会でも、同様の学習カードを活用して児童の記録向上への意識付けを行い、持久力の伸長につなげた。</p>
地域・家庭連携	地域・家庭に開かれた学校づくり	<p>・地域の環境や人材を活用した学習活動の実践を推進し、深まりや広がりのある学習活動を実施する。</p> <p>・地域・家庭と連携し、学校教育（学習・安全・健康）に協力体制を構築する。特に家庭は豊富の学習活動への理解と協力が深まるような取組を工夫する。</p> <p>・HP、通信などで地域・家庭に教育活動の情報発信をていねいに行なう。</p>	<p>今年度より学校園において「県の農業農村体験事業」の助成金を得て、地域の農家さんの協力のもと野菜等の収穫体験を進めている。また、昨年度の引き継ぎ量の増加やプロジェクトや地域の活躍農家などのゲートwaysチラシの協力も得ながら内容や時間などの精進を行なうことができている。保護者アンケートでも学校は「家庭や地域と連携しながら教育活動を行なっている。」98.3%「学校は、お便り・メール・ホームページ等で情報提供に努めている。」96.5%と、地域家庭連携といふ点では、肯定的に受け止められている。さらに、児童の実体験による価値のある活動を推進していく。</p>
学校関係者評価	<p>（中間評価に対して、前期学校関係者評価委員会より）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・低学年集会など、段階を見つり「リーダー意識」が持てる取り組みがあり、高学年での気構えができる、今の姿が見られている。</li> <li>・集会での感想を言わせる取り組みや授業の中での自分の考え方を表現する学習はコミュニケーション能力をつける良い取り組み。生きる力なので、自分のことをしっかりと伝えられるたくましい子を育ててほしい。</li> <li>・木場小の児童数の減少が中学校へ行ってのギャップを感じる要因として心配である。競争力も大切なことで、前述のコミュニケーション能力を大切にしてほしい。</li> <li>・ICT機器は便利だが、字を書けなくなってしまうのは心配である。字をしっかりと丁寧に描く指導も大切にしてほしい。</li> </ul>		